

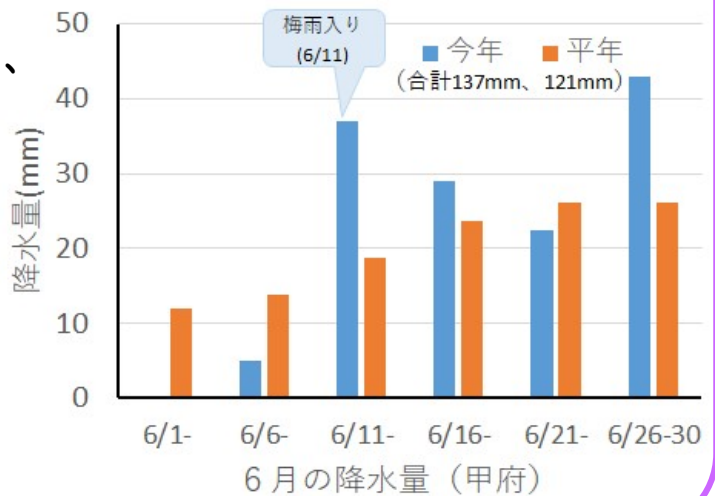
果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



梅雨後半の長雨に注意



- ブドウ栽培の最大の山場である開花結実期を切り抜けた後は収穫まで無事にたどり着けるように適切な管理が必要です。
- 今年の梅雨期は降水量がやや多く、曇雨天が続いています。気象状況を見ながら薬剤散布の適期を見逃せません。
- 7月に入ると、梅雨明け（平年 21 日）前にまとまった降雨があるので、べと病、うどんこ病等の病害発生に注意しましょう。特にべと病は感染後 4～7 日と短期間で発病するので、薬剤の散布間隔が空かない様に行いましょう。
- また、病害対策は薬剤散布だけではありません。副梢についた初期病斑の除去などの管理作業の他、園内の風通しの確保、排水環境の整備等普段から心掛けるべき作業を再確認しましょう。



梅雨明け後は高温に注意



- 梅雨明け後は一転して高温経過が予想されます。べと病の生育適温は 20～22℃と低いので、高温条件では発生は抑制されます。
- 反対に害虫被害は拡大すると予想されます。特にチャノキイロアザミウマ（スリップス類の一種）は高温乾燥を好み、10～15 日で1世代が進むので短期間で爆発的に増殖します。
- 本害虫は巨峰・ピオーネ等の大房系ブドウを好み、穂軸や果粒を加害して大きな被害の原因となります。防除は5月から定期的に行いますが、7月以降は特に重点的に行う必要があります。



チャノキイロアザミウマによる穂軸の加害
(左：被害果、右：健全果)